

3期 初化粧

化粧文化ギャラリーのオープン初年は、「はじまり」をキーワードに3つのテーマから化粧文化を紹介しています。1期「化粧文化研究のはじまり」、2期「化粧のはじまり」に続き、3期では「初化粧」をテーマに取り上げます。伝統的な社会の中では、成人、結婚、出産など、ライフステージが大きく変化するとき「初めて行う化粧」がありました。〈Art〉では、さまざまな通過儀礼の中でも特に、既婚女性を象徴する化粧である「剃り眉と丸髷」に焦点を当てています。「眉は顔の額縁」といわれるように、顔の印象を大きく左右する重要なパーツ。眉を剃り落とすことには、不安やためらいもあったことでしょうか。また娘時代の髪型を結えなくなることに、結婚への期待の一方で寂しさを感じた女性もいたのではないのでしょうか。通過儀礼としての化粧に注目しながら、化粧のもつ社会的な意味や、人生に訪れる「初化粧」への揺れる思いを読みときます。

〈Books〉では「転換点」から連想を広げて6つのテーマで書籍をご紹介します。

思い返すと、そこが「転換点」だった。人生にはドラマチックな変化を迫られるときがあります。社会から求められる姿に脱皮することへの不安、抵抗、憧れ、ステップアップに伴う高揚感…。ターニングポイントのときに思いをはせてみませんか。

Art 展示資料リスト

資料名	作者	制作年・時代		展示期間	
				12/9～ 2/7	2/13～ 3/28
春信風島田		明和	1764-72	●	●
燈籠髷島田髷		安永一寛政	1772-1801	●	●
丸髷		江戸時代末一 明治時代	19-20 世紀	●	●
違鷹羽根紋蒔絵櫛台		江戸時代後期	19 世紀	●	●
《名筆浮世絵鑑》	五渡亭国貞	文政頃	1818-30	●	
《江戸名所百人美女 芝神明前》	三代歌川豊国、 歌川国久（こま絵）	安政 5 年	1858		●
《当勢三十二想 見せた相》	国周（豊原国周）	明治 4 年	1871	●	
《当勢三十二想 あたたまり相》	国周（豊原国周）	明治 2 年	1869		●
《千代田の大奥 おさざれ石》	楊洲周延	明治 28 年	1895	●	
《千代田の大奥 元旦二度目の御飯》	楊洲周延	明治 28 年	1895		●

ポーラ文化研究所ウェブサイト「デジタルミュージアム」のご案内

これまでに企画開催してきた展覧会をデジタルで再構築しました。

1クリックから美しさの世界との出会いが始まります。

ぜひアクセスしてみてください。

「デジタルミュージアム」TOP はこちら▷



Border

PICK UP 『大吉原展』東京藝術大学大学美術館, 東京新聞編. 東京新聞, テレビ朝日, 2024 年 [702.15]

「お歯黒ドブ」で囲まれた人工の町「吉原」。大門をくぐると不夜城とよばれた遊興の世界が広がります。本書は、2024 年に東京藝術大学大学美術館で開催された展覧会の図録として刊行されたもの。江戸幕府公認の遊廓「吉原」の歴史や街の構成、そこで育まれた文化などについて、絵画や書籍、当時の一次資料などから丁寧に読み解いています。

『雑誌文化の中の女性学』諸橋泰樹著. 明石書店, 1993 年 [051.7]

『「らしさ」の心理学 (講談社現代新書)』福富護著. 講談社, 1985 年 [141.9]

『風俗史からみたベル・エポックの時代: 女性らしさと男らしさ』青木英夫著. 源流社, 1989 年 [209.7]

『境界の日本史境界の日本史』村井章介[ほか]編. 山川出版社, 1997 年 [210.18]

『江戸わかもの孝 (歴史のなかの若者たち)』野口武彦著. 三省堂, 1986 年 [210.5]

『江戸が東京になった日: 明治二年の東京遷都 (講談社選書メチエ)』佐々木克著. 講談社, 2001 年 [210.61]

『江戸から東京へ; 1-9 巻(中公文庫)』. 矢田挿雲著. 中央公論社, 1993-1995 年 [291.361]

『イメージとしての戦後』坪井秀人, 藤木秀朗編著. 青弓社, 2010 年 [361.45]

『〈男らしさ〉のゆくえ: 男性文化の文化社会学』伊藤公雄著. 新曜社, 1993 年 [367]

『男性学基本論文集』平山亮[ほか]編. 勁草書房, 2024 年 [367.5]

『〈特集〉田中美津とウーマンリブの時代 (現代思想 2024 年 12 月号)』青土社, 2024 年 [367.21]

『平安朝の女と男: 貴族と庶民の性と愛 (中公新書)』服藤早苗著. 中央公論社, 1995 年 [384.7]

『メトロセクシャル』マイケル・フロッカー著, 伊藤あや子訳. ソフトバンクパブリッシング, 2004 年 [590]

『美容と東洋医学 - 人間美と健康美の原点』大形徹監修, 王財源著. 静風社, 2017 年 [490.9]

『身体文化・メディア・象徴的権力: 化粧とファッションの社会学』黄順姫著. 学文社, 2019 年 [595.5]

『もやもや日本近代美術: 境界を揺るがす視覚イメージ』増野恵子編集代表. 勉誠出版, 2022 年 [702.16]

Kenneth Clark. *Feminine beauty*. Weidenfeld & Nicolson. 1980. [704.41]

Anna Jackson, Masami Yamada, *Fashion and the Floating World: Japanese ukiyo-e Prints*. V & A Publishing, 2024. [721.8]

『ヌードとモードの間: 欲望の考現学』北山晴一著. 日本経済新聞社, 1993 年 [914.6]

変態

PICK UP 『若者の顔: 1945-1995 (別冊太陽 日本のこころ)』鷺田清一, 金子隆一構成. 平凡社, 1995 年 [743.4]

子どもと大人の狭間の時間を過ごす「若者」の顔を集めた写真集。戦後 50 年間の若者の顔、顔、顔から見えてくるものは。時代ごとの顔の考察、あるいは若者から見た親世代の顔…。充実したテキストと写真を俯瞰することで、当時の「若者たちの姿」をより深く理解することができるでしょう。

『〈特集〉メタバース (現代思想 2022 年 9 月号)』青土社, 2022 年 [007.3]

『顔の考古学: 異形の世界史 (歴史文化ライブラリー)』設楽博己著. 吉川弘文館, 2021 年 [210.2]

『武士の衣服から歴史を読む: 古代・中世の武家服制』佐多芳彦著. 吉川弘文館, 2023 年 [210.09]

『洋服・散髪・脱刀: 服制の明治維新』刑部芳則著. 講談社, 2010 年 [383.1]

Ezra Petronio. *Bold & beautiful*. Edition 7L, 2005. [283.038]

- 『かわいい症候群』増淵宗一著. 日本放送出版協会, 1994年 [361.5]
- 『モードの生活文化史 1: 古代ローマからバロックまで』マックス・フォン・ベーン著, 永井藤夫[ほか]訳. 河出書房新社, 1989年 [382.3]
- 『モードの生活文化史 2: 18世紀から1910年代まで』マックス・フォン・ベーン著, 永井藤夫[ほか]訳. 河出書房新社, 1990年 [382.3]
- 『魅惑という名の衣裳: ハリウッド・コスチュームデザイナー史』川本恵子著. キネマ旬報社, 1993年 [383.1]
- 『男装論』石井達朗著. 青弓社, 1994年 [383.1]
- 『衣服は肉体になにを与えたか: 現代モードの社会学 (朝日選書)』北山晴一著. 朝日新聞社, 1999年 [383.1]
- 『ドレス・コード?: 着る人たちのゲーム』京都服飾文化研究財団編. 京都服飾文化研究財団, 2019年 [383.1]
- 『なぜカツラは大きくなったのか?: 髪型の歴史えほん』K.クルル文, P.マローン絵, 宮坂宏美訳. あすなろ書房, 2012年 [383.5]
- 『平安王朝の子どもたち: 王権と家・童』服藤早苗著. 吉川弘文館, 2004年 [384.5]
- 『アンネナプキンの社会史 (Turtle books)』小林清美著. 宝島社, 1992年
- 『ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム from 1989』メディア・アート国際化推進委員会編. 国書刊行会, 2015年 [726.101]
- 『原宿・竹の子族』香咲弥須子著. 第三書館, 1981年 [748]
- 『欲望のオブジェ: デザインと社会 1750-1980』アドリアン・フォーティ著, 高島平吾訳. 鹿島出版会, 1992年 [757.5]
- 『変身の思想』今尾哲也著. 法政大学出版局, 1970年 [774.04]
- 『歌舞伎のかつら』松田青風著. 演劇出版社, 1959年 [774.68]
- 『女形のすべて』戸板康二著. 駸々堂出版, 1990年 [774.38]

流行

PICK UP 『日本女装変遷史: 着装分解』吉川観方監修, 上田定緒編. 装道出版局, 1980年 [383.1]

日本の伝統的な衣服の変遷を再現した貴重な写真集です。監修の吉川観方（日本画家、風俗研究収集家）が収集した膨大な資料をもとに、実際に化粧、髪型を整え、衣装を着付け、その解説を付しています。複数角度からの撮影、着装順の掲載など、よそおいの詳細を詳らかにする一冊です。

- 『創刊号のパノラマ: 近代日本の雑誌・岩波書店コレクションより』うらわ美術館, 2004年 [051]
- 『雑誌メディアの文化史: 変貌する戦後パラダイム』吉田則昭, 岡田章子編. 森話社, 2012年 [051]
- 『ギャルと「僕ら」の20年史: 女子高生雑誌 Cawaii! の誕生と終焉: 95年からの渋谷文化』長谷川晶一著. 亜紀書房, 2015年 [051]
- 『「アンアン」1970 (平凡社新書)』赤木洋一著. 平凡社, 2007年 [051.7]
- 『オリーブの罫 (講談社現代新書)』酒井順子著. 講談社, 2014年 [051.7]
- 『JJとその時代: 女のこは雑誌に何を夢見たのか (光文社新書)』鈴木涼美著. 光文社, 2021年 [051.7]
- 『「ミセス」の時代: おしゃれと〈教養〉と今井田勲』江刺昭子著. 現代書館, 2014年 [051.7]
- 『日本古典風俗辞典 (角川ソフィア文庫)』室伏信助著. 角川書店, 2022年 [210.9]
- 『流行の社会心理史』市川孝一著. 学陽書房, 1993年 [361.4]
- 『考現学採集: モデルノロデオ (復刻版)』今和次郎, 吉田謙吉編著. 学陽書房, 1986年 [380]
- 『元禄小袖からミニ・スカートまで: 日本のファッション・300年絵巻』戸板康二著. サンケイ新聞社出版局, 1972年 [383.1]
- 『ファッションと風俗の70年』婦人画報編. 婦人画報社, 1975年 [383.1]
- 『江戸時代の流行と美意識: 装いの文化史』谷田有史, 村田孝子監修. 三樹書房, 2015年 [383.11]
- 『パリ・モードの200年: 18世紀後半から第二次大戦まで』南静著. 文化出版局, 1975年 [383.135]
- 『In Vogue: ヴォーグの60年』ジョージナ・ハウエル著, 小沢瑞穂[ほか]訳. 平凡社, 1980年 [383.135]
- 『100年前の女性のたしなみ (100年前シリーズ)』マール社編集部編. マール社, 1996年 [384.6]
- 『Gruau (Memoire de la mode)』フランソワ・ボド著, 貴田奈津子訳. 光琳社出版, 1998年 [589.2]
- 『玳瑁亀図説: 天・地 (復版)』金子直吉編, 石川泓美校. 東京鼈甲組合連合会, 1982年 [755.7]

『玳瑁考：長崎のべっ甲を中心にして』越中哲也著. 純心女子短期大学付属歴史資料博物館, 1992年 [755.7]

『〈特集〉アイドル研究 (キネマ旬報 1983年8月下旬号)』キネマ旬報社, 1982年 [767.8]

『浮世草子大事典：江戸時代の社会・風俗がわかる』長谷川強監修. 笠間書院, [913.52]

視覚

PICK UP 『図説鼻とにの文化史：クレオパトラからナポレオン、レディ・ガガまで』カーロ・フェルベーク著, 足立江里佐訳. 原書房, 2024年 [701.5]

ヒトの顔の中央に鎮座する一番大きな部品。かつて西洋の人々は、鼻の大きさや形を人格の指標として見ていました。本書では、嗅覚アートを専門とする美術史家・学芸員が、歴史上の人物から現代の歌姫まで、鼻という存在を糸口に、精神と肉体、人間性について論じています。

『「見た目」依存の時代：「美」という抑圧が階層化社会に拍車を掛ける』石井政之, 石田かおり著. 原書房, 2005年 [141.2]

『匂いの哲学：香りたつ美と芸術の世界』シャンタル・ジャケ著, 北村未央訳. 晃洋書房, 2015年 [141.2]

『皮膚感覚と人間のこころ (新潮選書)』傳田光洋著. 新潮社, 2013年 [141.24]

『第一印象の科学：なぜヒトは顔に惑わされてしまうのか?』A.トドロフ[著], 中里京子訳, 作田由衣子監修. みすず書房, 2019年 [141.51]

『色に出でにけり：身分と差別』大阪人権博物館編. 大阪人権博物館, 1998年 [210.1]

『平安京のニオイ (歴史文化ライブラリー)』安田雅彦著. 吉川弘文館, 2007年 [210.37]

『奥行きをなくした顔の時代：イメージ化する身体、コスメ・自撮り・SNS』米澤泉, 馬場伸彦著. 晃洋書房, 2021年 [361.04]

『日本人の顔：図像から文化を読む (NHK ブックス)』山折哲雄著. 日本放送出版協会, 1986年 [361.5]

『日本人の心と色：色彩によるユニークな比較文化論』小林重順著. 講談社, 1974年 [361.6]

『光の博物誌：神話・絵画・写真・現代物理学 etc.』リチャード・モリス著, はやしはじめ訳. 白揚社, 1980年 [425]

『色とにの科学 (パリティブックス)』パリティ編集委員会編, 大槻義彦責任編集. 丸善, 2001年 [425.7]

『闇をひらく光：19世紀における照明の歴史』ヴォルフガング・シヴェルブシュ著, 小川さくえ訳. 法政大学出版局, 1988年 [545.02]

『光と影のドラマトゥルギー：20世紀における電気照明の登場』W.シヴェルブシュ著, 小川さくえ訳. 法政大学出版局, 1997年 [545.02]

『Colors：ファッションと色彩：Viktor & Rolf & KCI』河本信治, 深井晃子監修. 京都服飾文化研究財団, 2004年 [593.3]

『ダリ作品集』松田健児監修・著, 長尾天[ほか]著. 東京美術, 2024年 [723.36]

『色の博物誌：江戸時代の色材を視る・読む』降旗千賀子[ほか]編. 目黒区美術館. 2016年 [724.1]

『ヴィジュアルコミュニケーションの歴史』ウィリアム・アイヴィンス著, 白石和也訳. 晶文社, 1984年 [732.3]

『赤の歴史文化図鑑』ミシェル・パストゥロー著, 蔵持不三也, 城谷民世訳. 原書房, 2018年 [757.3]

『カラーセラピー』ジョナサン・ディー, レスリー・テイラー著, 鈴木宏子訳. 産調出版, 2003年 [757.4]

『悲しい曲の何が悲しいのか：音楽美学と心の哲学』源河亨著. 慶應義塾大学出版会, 2019年 [761.1]

『オノマトペの謎：ピカチュウからモフモフまで (岩波科学ライブラリー)』窪菌晴夫編. 岩波書店, 2017年. [814]

『オノマトペ：擬音語・擬態語の世界 (角川ソフィア文庫)』小野正弘著. 角川書店, 2019年 [814]

『感覚の近代：声・身体・表象』坪井秀人著. 名古屋大学出版会, 2006年 [910.26]

『文学にみる日本の色 (朝日選書)』伊原昭著. 朝日新聞社, 1994年 [910.4]

PICK UP 『洋装の日本史（インターナショナル新書）』 刑部芳則著. 集英社, 2022年 [383.1]

明治以降、日本では、伝統的な化粧と洋風化粧が併走する時代が1950年頃まで続きます。本書は、洋装化に向かう大きな流れについて、先行研究はもちろん、既刊書籍批判などややセンセーショナルな序章からスタートしますが、和洋混在が長く続いた戦前までの化粧の状況を理解する上で、豊富な資料を提示してくれます。

『新聞報道と顔写真：写真のウソとマコト（中公新書）』 小林弘忠著. 中央公論社, 1998年 [070.17]

『身体はだれのものか：比較史でみる装いとケア（京都橘大学女性歴史文化研究所叢書）』 南直人[ほか]編. 昭和堂, 2018年 [141.9]

『可愛い戦争から離脱します』 整形アイドル轟ちゃん著. 幻冬舎, 2019年 [159.6]

『婦人雑誌からみた1930年代』 私たちの歴史を綴る会編著. 同時代社, 1987年 [210.7]

『[だてマスク]依存症：無縁社会の入り口に立つ人々』 菊本裕三著. 扶桑社, 2011年 [361.4]

『くよそおい』の心理学：サバイブ技法としての身体装飾』 荒川歩[ほか]編著. 北大路書房, 2023年 [361.4]

『偏見というまなざし：近代日本の感性（青弓社ライブラリー）』 坪井秀人編著. 青弓社, 2001年 [361.5]

『イメージ・ファクトリー：日本×流行×文化』 ドナルド・リチー著, 松田和也訳, ロイ・ガーナー写真. 青土社, 2005年 [361.5]

『美人好きは罪悪か?（ちくま新書）』 小谷野敦著. 筑摩書房, 2009年 [367.1]

『女の子は本当にピンクが好きなのか（ele-king books）』 堀越英美著. 2016年 [367.2]

『脱毛の歴史：ムダ毛をめぐる社会・性・文化』 レベッカ・M・ハージグ著. 飯原裕美訳. 東京堂出版, 2019年 [383.7]

『健康論の誘惑（ソキウス研究叢書）』 佐藤純一[ほか]著. 文化書房博文社, 2000年 [498]

『健康の社会史：養生、衛生から健康増進へ』 新村拓著. 法政大学出版局, 2006年 [498.021]

『ファッション中毒：スタイルに溺れ、ブランドに操られるあなた』 ミシェル・リー著. 和波雅子訳. 日本放送出版協会, 2004年 [589.2]

『ビューティ・ジャンキー—美と若さを求めて暴走する整形中毒者たち』 アレックス・クチンスキー著. 草鹿佐恵子訳. バジリコ, 2008年 [595]

『化粧を語る・化粧で語る：社会・文化的文脈と個人の関係性』 木戸彩恵著. ナカニシヤ出版, 2015年 [595.5]

『電車の窓に映った自分が死んだ父に見えた日、スキンケアははじめました。』 伊藤聡著. 平凡社, 2023年 [595.5]

『図説戦時下の化粧品広告：1931-1943』 石田あゆ著. 創元社, 2016 [674.6]

『モボ・モガ展：1910-1935』 神奈川県立近代美術館学芸課, 水沢勉編. 神奈川県立近代美術館, 1998年 [702.16]

『テレビドラマでわかる平成社会風俗史（じっぴコンパクト新書）』 影山貴彦著. 実業之日本社, 2019年 [778.8]

自信

PICK UP 『客観性の落とし穴（ちくまプリマー新書）』 村上靖彦著. 筑摩書房, 2023年 [116.7]

本書は、大学で教鞭を執る著者が感じる「客観性重視社会への違和感」が出发点となっています。客観性や数値など、エビデンスを重視する社会のものの見方、考え方に対して、自身の経験を引しながら、「人間関係や主観的な経験」が軽視される傾向があることを指摘。より包括的な視点をもつことの必要性を訴えています。

『幕末の宮廷（東洋文庫）』 下橋敬長述, 羽倉敬尚注. 平凡社, 1979年 [210.09]

『特別展はにわ：挂甲の武人国宝指定50周年記念：九州国立博物館開館20周年記念』 東京国立博物館[ほか]編. NHK, 2024年 [210.32]

『戦国時代の宮廷生活』 奥野高廣著. 続群書類従完成会, 2004年 [210.47]

『宮廷の装い』 文化学園服飾博物館編. 文化学園服飾博物館, 1991年

『幕末明治の肖像写真』 石黒敬章著. 角川学芸出版, 角川グループパブリッシング（発売） 2009年 [281.03]

- 『〈特集〉ルッキズムを考える（現代思想 2021 年 11 月号）』 青土社, 2021 年 [361.4]
- 『鏡と仮面：アイデンティティの社会心理学（Sekaishiso seminar）』 A.L.ストラウス著,片桐雅隆監訳. 世界思想社, 2001 年 [361.48]
- 『僕らの 80 年代：80 年代ブームの起点は 1982 年にあった！（平凡 Special ; MAGAZINE HOUSE MOOK）』 平凡社, 2019 年 [361.5]
- 『しのびよるネオ階級社会：“イギリス化”する日本の格差（平凡社新書）』 林信吾著. 平凡社, 2005 年 [361.8]
- 『広告、社会を揺さぶった：ポーヴォワールの娘たち』 脇田直枝著. 宣伝会議, 2015 年 [367.21]
- from the editors of Us Weekly. *Us secrets of celebrity style : a crash course in dressing like the stars*. Wenner Books, 2005. [383.1]
- 『LOVE ファッション：私を着がえるとき』 石関亮[ほか]編. 京都服飾文化研究財団, 2024 年 [383.1]
- 『東大ファッション論集中講義（ちくまプリマー文庫）』 平芳裕子著. 筑摩書房, 2024 年 [383.1]
- by Alan Mansfield. *Ceremonial costume*. A. & C. Black. 1980. [383.1]
- 『だから私はメイクする：悪友たちの美意識調査』 劇団雌猫編著. 柏書房, 2018 年 [585]
- 『ファッション・ブランドの起源：ポワレとシャネルとマーケティング』 塚田朋子著. 雄山閣, 2005 年 [589.2]
- edited by Christopher Breward [et.al]. *Swinging sixties : fashion in London and beyond 1955-1970*. V&A, 2006. [589.2]
- 『スウィング・シックスティーズ：ファッション・イン・ロンドン 1955-1970』 C.ブリュワード[ほか]監修, 古谷直子訳. ブルース・インターアクションズ, 2006 年 [589.2]
- 『闘う衣服（叢書記号学的実践）』 小野原教子著. 水声社, 2011 年 [589.2]
- 『世界一の美女になるダイエット』 エリカ・アンギャル著. 幻冬舎, 2009 年 [595]
- 『わたしもまわりも笑顔になる：小学生のメイク本』 イガリシノブ著. 講談社, 2024 年 [595.5]
- 『美容は自尊心の筋トレ（ele-king Books）』 長田杏奈著. P ヴァイン, 日販アイ・ピー・エス（発売）, 2019 年 [595.04]